

祈りの友へ

新年も本校の働きを共有していただきとりなしの祈り、そして尊い捧げものを聖別していただき心から御礼を申し上げます。新年度に向けての宣教のプログラム、豊かに祝福されますように祈ります。

< なぜ C-BTE なのか > その 3 「C-BTE 五つの基本概念」(2)

先回、「パラダイム」について、とりわけ「C-BTE」は聖書のパラダイムとは何か、という視点から確立したものの、まさに聖書神学の成果によるものだ、ということを紹介しました。

「C-BTE 五つの基本概念」 1. 「C-BTE」(教会主体の神学教育)

重要な概念に基づく論拠について、とかく人となられたキリストの受肉、公生涯と十字架の死と葬り、そして復活、昇天、それらを記した福音書にのみに注目しがちです。しかし、注意深く福音書を読むと「もう一人の助け主」「真理の御霊」を通してイエス・キリストが昇天後さらに啓示し、奥義としての教会について開示されていることに注目させられます。12 使徒たち、とりわけキリストの昇天後、使徒として召されたパウロは「奥義としての教会」の開示について重要な役割を果たしています。パウロ書簡、特にテサロニケ、ローマ、エペソ、牧会書簡等を読むとその概要を明確に捉えることができます。すなわち、パラダイムの五つの基本概念の最初が「C-BTE」(教会主体の神学教育)となります。つまり「C-BTE」は各個教会のいのちの営みにおける訓練プログラムであり、牧師はその訓練プログラムにおいて、きわめて重要な関わり合いを持って取り組みます。すなわち、①「C-BTE」は新約聖書の示す模範であり、パウロとテモテの手法、つまりイエスが 12 弟子を訓練した手法、②「C-BTE」は、牧会・伝道、学問、人格形成を統合したもの、③「C-BTE」は教会の建て上げ、訓練と伝道・牧会の働きを中心に据えるものです。

George Hunter (Asbury)の警鐘: キリスト教国は大きく揺らいでいる。ヨーロッパ、北アメリカの教会、大半は世俗化へと変質している。要因の一つとして西欧に世界観を与えた啓蒙主義の衰退がある。改めて、私たちは使徒時代、初代教会時代のキリスト教に惹きつけられる。今日、欧米型指導体制がいかに機能障害であり、妨げとなっているか、また新しい世紀の必要に応えるのにいかに貧しいものであるかをも、依然として気付いていない。

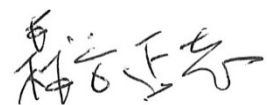
それゆえ私たちは根本的な再構成を論じ、提唱しています。神学教育、宣教の働き、神学的訓練、聖書解釈学等々、すべてのクリスチャン教育と成人教育の仕組みの再構築です。そのためにいかに「キリストと使徒たちの手法」に徹底的に戻るかです。

BILD を中心としたこの働き、理念の実践と資料の開発は 1972 年頃から始められ、1987 年ごろから本格化し今日に至っています。本校が C-BTE パラダイムへの転換を決断した 2005 年には C-BTE パラダイム理念の実証、資料の開発の完成、ネットワークの世界的広がり、そして大小のプロジェクトが展開 (福音の伝えられていない人々の中での教会の設立等) しています。

(次回に続く)

2019年2月1日

C-BTE Japan リソースセンター
仙台バプテスト神学校



校長 森谷正志